

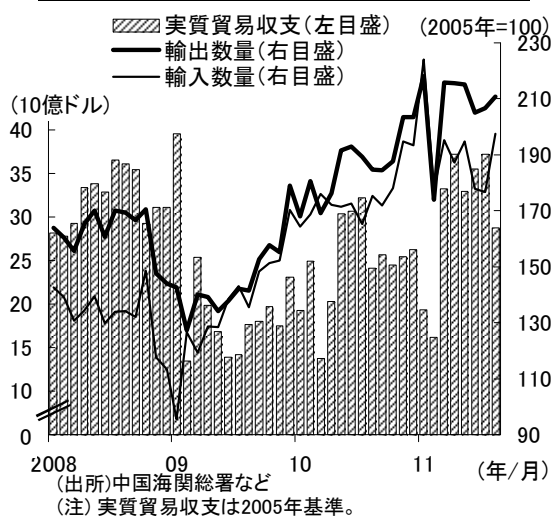


中国の輸出に持ち直しの兆し

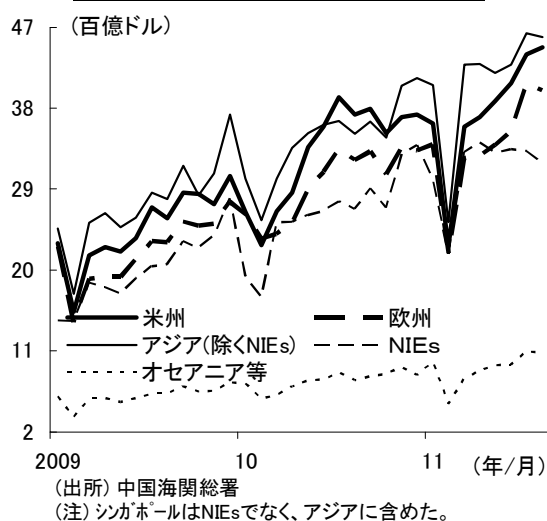
～ 外需が加わり、今後成長加速が視野 ～

- (1) 中国の実質輸出は春節に伴い大幅に変動したものの、本年初来季調済ベースで一進一退。主因は①春以降、欧米先進国を中心に増大した先行き懸念、②中国国内で賃金上昇が拡大、③緩やかながら人民元レートが次第に上昇。一進一退は、輸出環境の変化を映した推移。しかし、7月以降、持ち直しの兆し（図表1）。
- (2) 主な輸出先別にみると、米州と欧州が牽引役（図表2）。品目別にみると、とりわけ、事務機器や音響・通信機器、輸送用機器や鉄鋼・金属製品が増加。スマホなど音響・通信機器は欧米を中心にこのところ急速に需要拡大。PC・同関連機器など事務機器はコスト削減に向けたIT投資の盛り上がりが進む。自動車はブラジルをはじめ中南米向け輸出が好調。鉄鋼・金属製品はASEANなど新興国向けが堅調。自動車輸出はブラジル政府の課税引き上げ措置により年末に向け鈍化が不可避。それ以外は総じて好調持続の公算大。
- (3) 音響・通信機器や事務用機器は生産拠点として中国を活用しようとする海外企業の事業戦略の反映。対内直接投資は10年に入り増勢転換（図表3）。10年末以降、再び製造業が直接投資の牽引役に。
- (4) 本年入り後、中国は内需主導で成長。外需マイナスのもと、生産活動の増勢にやや翳り。しかし、発電量や物流動向をみると7～8月以降再び増勢回復の兆し（図表4）。輸出持ち直しが原動力の一つ。外需の牽引力が上乘せられ、今後、中国経済は成長加速が視野。

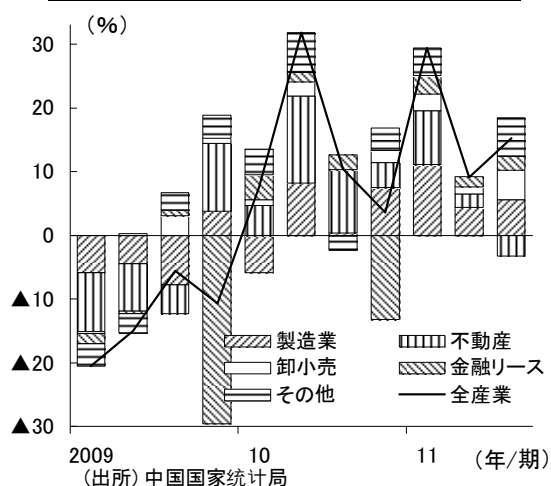
（図表1）輸出入数量と実質貿易収支（季調済）



（図表2）主要エリア別輸出金額の推移



（図表3）主要分野別対内直接投資（前年比）



（図表4）貨物輸送量と発電量（季調済）

